



ITU-D TDAG会合結果報告

総務省 国際政策課 **ながや よしあき**
長屋 嘉明



1. 概要

2019年4月3～5日、ITU本部（ジュネーブ）において、第24回電気通信諮問会議（24th Telecommunication Development Advisory Group；TDAG-24）が開催された。TDAGはITU-D局長の諮問機関として年1回開催され、活動状況の評価、業務計画の審議等、ITU-Dの活動全般について助言を行う。PP-18でITU-D新局長にドリーン・ボグダン氏が選出されて以降、初めての開催となり、同新局長の手腕に注目が集まった。

2. ドリーン・ボグダン新ITU-D局長のビジョン

会合に先立ち、ボグダン新ITU-D局長から、自らのビジョンについてのプレゼンがあった。2018年末にインターネットにアクセスできる人口が全体の半分以上を超えたことを祝しつつ、残りの半分へのアプローチに挑戦する「Connecting The Remaining Half Of The World Population」をビジョンとし、戦略的優先事項として、「Improve Our Efficiency」「Regional Relevance」「Partnership」「Capacity Building」「Data Driven Thought Leadership」を挙げた。またフォーカスするエリアとして「Collaboration」「Cluster the Work」「Skills and Capacity」「Partnership」「Communicating Impact」を掲げた。

あわせて、局長就任以降最初の100日の戦略「100 days plan」の報告があった。コラボレーションを重視し、100以上のバイ会談を実施、加盟国のニーズに耳を傾けた。局長自身が9か国を訪問し、BDT全体では63か国を訪問した。次のステップはWTDC-21までの中期計画になる。内部プロセスの合理化を既に始めており、スタッフに自分の地域に対して権限を持たせるとともに、内部統制を整える。

TDAG会合中、局長の発案により、特定の課題に対して、インフォーマルに参加者が議論する「ブレイクアウトセッション」が行われたとともに、各地域事務所長と地域イニシアチブについて対話を行うセッションも行われた。

加盟国からの評価は高く、先進国、途上国の双方から、変わることへの期待が感じられた。

3. ブレイクアウトセッションの開催

以下の8テーマについて、TDAG参加者が関心ある分野のセッションに参加し、改善のアイデアが取りまとめられた。それぞれTDAG副議長がファシリテータとして議論を主導、レポートには国名、個人名を記載しない。

- Partnership Building & Resource Mobilization for Projects
- Role of Regional Presence
- WTDC Preparatory Process and Format
- ITU-D SG
- ICT data and statistics
- ITU-D Innovation
- Telecom/ICT network infrastructure
- Capacity Building and Skill Development

4. TDAG副議長・SG副議長の交代

TDAG及びSG副議長の交代の提案が計4名分なされ、全て提案どおり承認された。

○TDAG副議長

Ms. Amparo Arango（ドミニカ共和国）
（前任：Ms. Katrina Naut）

Ms. Aichurok Maralbek Kyzy（キルギス）
（前任：Ms. Nurzat Boljobekova）

○SG1副議長

Ms. Anastasia Sergeevna Konukhova（ロシア）*

○SG2副議長

Mr. Abdelaziz Alzarooni（UAE）
（前任：Mr. Nasser Al Marzooqi）

* Mr. Krisztián Stefanics（ハンガリー）がSG1副議長を退任、ウクライナが2018年10月にモスクワ事務所管轄から欧州事務所管轄に変更されたことを受け、Mr. Vadym Kaptur（ウクライナ）が欧州地域代表副議長に横滑り、空席となったCIS地域代表副議長に同氏が就任。ウクライナの地域移動はITU-Dでの地域分けのみで行われる。

5. 統計関連

2018年12月に公表された情報社会測定レポートでは、ICT開発指標（IDI）の掲載が行われなかった。これはIDIがこれまでの11指標から14指標に変わったことにより、統計データを提供できた国が50%を超えなかったためであると事務局より説明された。2019年版については国内統計制度の整備が追いついていない国が多いことから悲観的であるとの説明が局長からあった。

またPP-18でのPP決議131の改正に伴い、ITU-D SGで統計指標を積極的に用いることがうたわれたことを受け、本年の3月に開催されたITU-D SGにおいてSG副議長一名を担当とし、定期的に統計専門家会合からの情報提供を求めることが決定されたことに対し、一部の国から統計専門家でないSGで指標策定が進められるのではないかとの懸念が示され、指標策定のプロセスは変更がない（引き続き専門家会合で行われる）ことが確認された。

先日、加盟国に事前提供されたグローバルサイバーセキュリティインデックスについて、カナダから、回答を提出していないにも関わらず推計値として掲載されており、加盟国間で不公平が生じるのではないかとの懸念が示され、その旨の記載を明確にするとの回答が事務局よりあった。

6. PP決議9 特に途上国の周波数管理への参加

WTDC-17で終了が決議されたPP決議9に関するITU-D SGでの研究を再開させる提案は取り下げられ、PP決議9に関連するITU-D SGの課題を整理し、ITU-R SGに提供することとなった。

7. メンバーシップ関連

セクターメンバー数が継続的に減少していることが事務局から報告された（2013年の346から2018年は310に減少）。これは企業統合や経済状況によるものに加え、アカデミアやアソシエイトの身分に変更された影響がある。事態の打開のため、事務局からパートナーシップを通じて新規にセクターメンバーを引き込んでいくことが提案された。事務局に対し、特にSMEs（中小企業）とアカデミアの新規参入に関し、地域事務所の関与を強化することが求められた。

8. WTDC-21の準備

エチオピアからホスト国受入れの意思表示があった。2019年理事会で承認される。期間は2021年9月13～24日。首都のアディスアベバにはアフリカ連合の本部があるが、新会議場の建設も行っているとのこと。

9. エチオピア航空機事故犠牲者の追悼

3月10日に発生したエチオピア航空302便墜落事故で、アフリカ地域事務所のMr. Marcelino Tayob（シニアアドバイザー）及びMs. Maygenet Abebeが犠牲になった。それぞれの名前を冠したフェロウシップ及び女子支援基金の設立を検討しているとの説明が事務局よりあった。この場を借りて哀悼の意を表したい。



■写真、筆者が訪問するとなぜか雪が積もるジュネーブ（Palais des Nations方向）